

令和5年度幼稚園学校評価（神門幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	
			達成及び取組状況	評価	評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	年度当初の職員会議で幼稚園の教育目標や研究の取組などについて職員間で共通理解し、学級経営案を作成している。幼児の実態を捉え、毎月、指導計画や週案を作成して保育を行い、日々の保育が、めざす幼児像につながっていくよう反省評価を行っている。	4	4	教育目標を踏まえ各学年の発達や実態に合った経営案を作成できた。その時期の活動や子どもの様子から、経営案を見直しながら具体的な指導計画を作成できるようにしなければならない。学期ごとに子どもの育ちをまとめ、保護者や運営協議会委員の方に幼稚園生活の理解を深めてもらうようにしているので継続して取り組みたい。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	幼児理解に向け研修計画を立て、1学期から各学級の保育の記録日を設けて、教員同士が互いの保育を見合ったり幼児の記録を取りつた。また、園内研修を実施し、幼児の姿や内面の読み取り、援助の仕方など話し合うなど理解を深めるようにした。	3	4	今年度、担任会や指導計画の話し合いなどの中で、一人一人の育ちや課題について互いの意見交換をすることで多面的な見方ができるように努めた。援助が難しい園児の対応については、専門の指導員の指導を通して学ぶことができた。保育はまず幼児理解から始まるので今後も研鑽を深めていきたい。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	支援が必要な幼児や気になる子どもについて、入園前に保健師と情報共有し必要があれば保育幼稚園課に追加教諭の配置を要望している。また、定期的に市の巡回相談を受け適切な支援ができるよう指導を受けている。保護者の理解が得て、保護者と園で支援ファイルを作成し指導の手立てとしている。支援ファイルは就学先に送付し、親子で安心して就学に向かえるようにしている。	3	3	今年度は支援が難しい子どもについて、関連機関や指導員と連携を深めるようにした。関連機関が増えるなど難しい面もあったが、子ども一人一人に適した援助や保育環境を全職員で共通理解しながら取り組むように努めた。就学に向かって支援ファイルの作成や就学後の学校生活の理解を深めるため、学校見学など伝え、実施してもらうなどの方法を今後も活かしていきたい。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	同和教育を基底に据えて幼稚園教育に取り組んでいる。子どもたちの生活の中で、場面を捉え気づいたり考えたりするよう指導している。職員は園内研修や市の研修など参加し、人権意識を高めるよう努めた。	3	3	園内研修や職員研修、観学プロジェクトなどの保護者研修を通し、学びを深めたり自分自身を振り返りながら子どもと向き合ったりすることができた。保護者研修の感想も、いろいろな子育ての考えが知れて良かったなどの意見が多かったので続けたい。参加者が少なかったので開催方法の工夫をしていきたいと思う。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	新型コロナウイルス感染症が5類になり、運動会や発表会など時間や人数の制限を無くして実施。行事に向かって、一人一人の良さが活かせるような活動を大切にしている。行事は、日々の保育の積み重ねで子どもたちに身に付いたことや心の成長を感じてもらえるように、様子をクラスだよりで知らせるなど工夫した。	4	4	今年度、保護者アンケートの方では「そう思う」「だいたいそう思う」の回答を多くいただいた。各担任が、行事に向かう子どもの姿や成長、大切に育んでいることをクラスだより等で伝えた上で、保護者理解につながったと感じる。今後も、子どもたちが身に付けようとしている資質・能力について、日々の保育や生活が繋がっていることを知らせていきたい。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	小学校や近隣の保育園と、児童や園児の交流を実施し年長児にとっては小学校に親しみや期待感をもつ機会となった。職員同士は、校園長会や担当者会などで連携を図ることができた。小学校入学に不安を感じる園児と保護者に関して、情報交換もできている。	3	3	年度当初の年間計画に基づいて、児童と園児、職員間の交流や話し合いができたので、継続していきたい。交流時には児童と幼稚園職員で感想や意見を出し合う振り返りもできたので、互恵性のある交流として大切にしていきたい。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	保護者はとても熱心で、環境整備、保育活動についてのお願いなどに対しても協力的である。また、神戸川でじじみ採りや梨の受粉・梨狩り、真幸ヶ丘公園など豊かな体験活動を通して地域との交流ができた。保護者アンケートの結果からは、子どもに関する気軽な相談等について、さらに連携を深めるよう要望もあった。	3	4	保護者、幼稚園、地域との連携について工夫しながら取り組むことができたが、さらに広げたり深めたりするための工夫や連携については課題が残る。地域の方の知恵をお借りして検討、実施していきたい。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	今年度も、研究の取組の見直しと研修計画にそった研修など、職員の資質向上に向けて全職員で取り組んだ。園外の研修はオンラインから参加型が増え、実際の保育を見て学ぶ機会を大切に積極的に参加し研鑽に努めた。	4	4	市幼研主催の研修や地域の同和教育の研修など、職員一人一人が積極的に参加した。研修後は、復命し職員同士で共通理解を図るなど、活かしていくよう努めていきたい。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	行事の起案や準備など早めから始め見通しをもって取り組んだ。職員間で連携を取ること、協力して進めることができた。自分の担当以外のことでも声を掛け合っカバール、円滑に進むように努めた。	4	4	職員全員で協力して分掌や行事の担当などを進めることができた。次年度は、一つ一つの行事について反省点や課題を明確にし、行事の精選や新たな地域の方との交流も図ってきたい。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	保護者への緊急連絡は、メールを利用しメール配信している。メールをきちんと確認してもらうように周知を徹底している。避難訓練や交通安全教室など、学期ごとに実施し、園児や職員に防災や安全への意識が高まるように努めた。	3	3	保護者に対して配信システムの啓発を行い、確認や見落としが無いように周知する。連絡等の周知が徹底するよう気を付けたら緊急連絡の内容について保護者の理解を図ったりしていきたい。園児の安全のために訓練等の計画的な実施を今後も続けていく。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	毎月、安全点検を行い必要に応じて修繕したり施設課に報告したりして、園児の安全な生活確保を行っている。園庭や畑は、保護者や地域の方の協力を得て環境整備に努めており大変助かっているが、一時期道路側に植物がはみ出していたことがあったので今後は注意して整備したい。	3	3	園舎内外の修理について、校務員さんと連携を取り早めに対応していただくようにしているの引き続きお願いする。遊具の安全な使い方等を指導すると共に、日頃から安全面について注意して点検していきたい。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する